

中執選挙を次期自治会の政策論争の場に!

統一会議(主流派)への公開質問状
全学連統一派

22日開催されたヤセ回中執選挙は、あと二日を余すのみとなった。選挙戦前半の特徴は、立候補した各派がそれぞれの主張を述べあうのみで、その論点ばかりあらず、一致点と相違点が学友の前に十分に明らかにされていらないことである。

いうまでもなく、中執選挙の意義は、選挙運動を通じての広汎な討議によって、次期自治会の任務が何かを大衆的に明らかにし確認する点にある。

われわれ統一会議(民学同派)は、このために、あらゆる機会を捉えて次期自治会の任務を明確にしてきたが、市大自治会の大衆的民主的再建と強化に深くかかわる諸点に限定して公開質問状を発し、政策論争前進の一助としたい。

「統一会議」(主流派)への公開質問

質問1

△4・26先駆ストの誤まりと自治会活動のあり方について▽

君たちが4月9日中執で決定した「4・26先駆スト」なる方針は、われわれが主張した如く主体的条件を無視した、クラス引き回しの踏ぬり方針であった。4月23日には、君たちも遂にわれわれの主張の正しさを認めざるをえなかったが、君たちの誤りはなぜ起ったのか? またそのために引きおこされたクラスの混乱の責任をどう考えているのか? 今後これをいかに克服していくのか?

4月、新入生を迎えた段階でのベトナム反戦斗争の組織形態について、われわれは、教官、学生の強固な全大学的意志統一をなすために全市大集会を提起し、クラス学友が多様な形でそれに参加するよう呼びかけた。しかし自称「統一会議」(主流派)の諸君は一貫してそれに反対し、主観的な「先駆スト」を提起してクラスを引き回し、運動の前進ははななく後退に寄与するのみであった。

われわれは、①自治会が政治斗争だけでなく、学園・教育・文化・スポーツ等の多面的な活動をクラスを基礎に展開し、②自治会の民主的運営・政策的に擁護し、③全大学入の統一をめざすことにより、はじめてこの引き回し主義を克服できると考えているが、この点についてどうか?

質問2

△大学自治会擁護の爲の方針について▽

現在大学の自治は、三派「全学連」等のヘルメット・棍棒戦術による大学自治の内部からの破壊と、それを利用した政府の反動的攻取によって危機に陥入っている。大学の自治を擁護し発展させるためには、三派のヘルメット・棍棒戦術を徹底的に粉碎し、大衆的民主的學生運動を再建すること、教官・職員との強固な統一と団結をつくり上げる(ウラハ)

統一会議
経文法理家医

民学同派
二全区学全二

ことば必要である。この点についてどう考えるのか。

昨秋の羽田斗争以降、われわれは、極左的なヘルメツト棍棒戦術やトロキ系諸派による自治会の民主的運営の破壊を大衆的に批判し克服することを主張した。しかし自称「主流派」の諸君は、言を左右にしてこれを行わなかった。今からでも遅くはない。大学自治の内部からの破壊に、教官、学生が一体となって闘うことが必要だと考えるが、その点についてどうか。

質問3

「7月全国自治会共斗結成」の強行か
「行動の統一」の粘り強い追求か？

君たちは、今年3月以来「7月全国自治会共斗結成」を主張し、4月にも君たちの「学生運動論パンフレット」でも繰り返していた。だが、現実的展望もない中でそれを強行することは、学生運動分裂の固定化、やがて「全学連」の道への転落であるとの批判が学友の中に起っており、われわれは、粘り強く全国全自治会に「課題の一致に基づく行動の統一」を呼びかけ、その条件を形成していくなかで、地方学連の統一の再建、単一全学連再建に前進すべきだと考える。「主流派」の諸君は、「7月全国自治会共斗結成」を針を撤回し、われわれと共に闘うべきだと考えるか、どうか？

われわれは、今日の学生運動の再建、統一は、単位自治会の大衆的民主的再生と統一の強化、全国的な行動の統一、共同斗争の追求によって始めて可能であり、それを基礎として始めて単一全学連再建が実現できると考える。課題別自治会共斗は、その過程の一定の時点でのみ日程にのぼるのであり、あらかじめ十指にまたぬ少数自治会で「全国自治会共斗」を自称しても、それは単に「全学連」として現在の分裂を固定化するのみであり、その統一には何ら寄与しない。

「全学連」統一派(民青派)への

公開質問

質問1

「民青派も6・15全国斗争に参加すべきである」

日高六郎氏をはじめ知識人によって「ベトナム反戦6月共同行動」が提起され、大阪でも総評をはじめ全民主勢力は6・15共同斗争実現に前進している。関西の学生も6・15全関西学生総決起六千名集会に準備を進めている。君たちも「ベトナム反戦」で一致している以上、組織問題での意見の不一致を当面相互に留保して、この斗いに参加すべきだと考えるが、なぜ君たちは参加しないのか？

「統一」派(民青派)の諸君は、「趣旨には賛成だが、修正主義者・分裂主義者が参加しているので……」と参加しないことを求め、呼びかけ人の一人である古在由重氏に共産党から圧力をかけて呼びかけ人を辞退させたい。

だが、意見の相違はあっても、共同斗争には参加すべきであり、その中ではじめて譲った方針は克服されるのである。「知識人アピールは悪用されている」と彼らは主張するが、彼らが「6月共同行動」に参加しないから、広大な大衆が民青派を批判するのであり、参加すれば「悪用」されることもなかったであろう。今からでも遅くはない。6月斗争を共同して闘おう。

質問2

「教授会は反動的か？ 民主的自治規約を結ぶべきか否か？」

君たちは「個々の教官は進歩的であっても、教授会は反動的であり、権力の先き機関だから大学側と民主的自治規約など結ぶべきでない」と主張する。しかし、寮・サークル部室等について民主的自治規約を教官・学生の共同の努力で作成し、この教官・学生の統一をうちかため、教授会の反動化を防ぎうる道だと考えるが、どうか？

戦後の大学の広大な広がりとその社会的使命の変化によって、教官層はその立場を徹底させれば、学問研究と真理の擁護の立場に立たざるをえず、基本的には大学自治擁護の立派に立脚する。もちろん個々の例外はあり、反動的教授も存在するが、われわれは、教授会と学生を敵対的なものとして捉えるのではなく、譲歩と納得に基づく関係として捉え、共に大学自治擁護の担い手として前進すべきだと考える。この点についてどうか。